

第2章 新市の概況

1. 位置と地勢

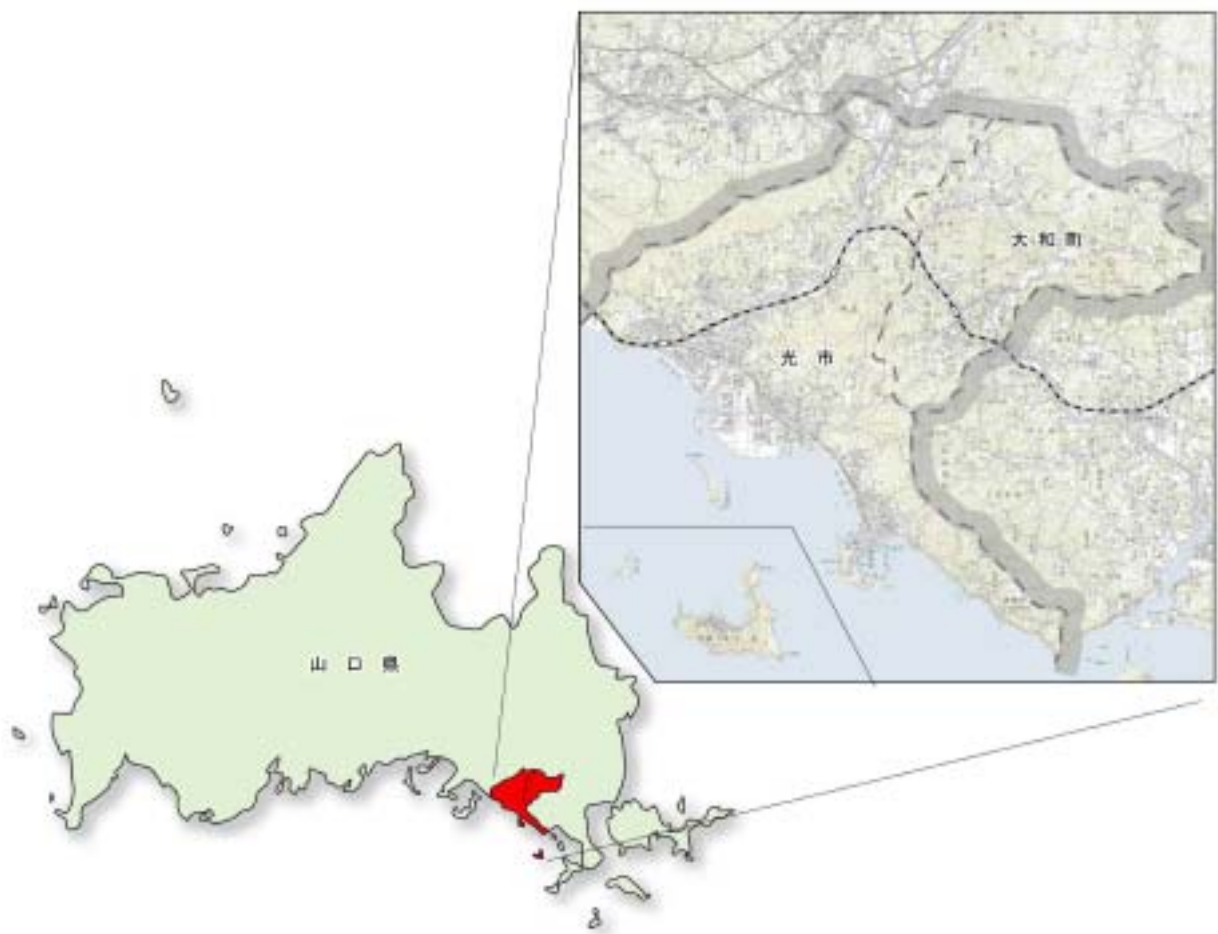
新市は、山口県の東南部、周南工業地帯の東部に位置し、市の東側に田布施町、北側に周南市、西側では下松市に隣接しています。

東西方向は約 16km、南北方向は約 15km、総面積は約 92km²（「平成 12 年全国都道府県市町村別面積」より）です。

市域の北西部には島田川、北東部には田布施川が流れており、両河川を中心にまとまった平地が広がっています。両河川の上流部には良好な田園地域が広がるとともに、島田川下流部のデルタ地帯を中心とした瀬戸内海沿岸や岩田駅周辺には市街地が形成されています。

また、新市は、瀬戸内の温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれており、白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸や象鼻ヶ岬など風光明媚な海岸部は瀬戸内海国立公園に、また、青々とした森の石城山を中心とした山間部は石城山県立自然公園に、それぞれ指定を受けています。

【 位置図 】



2. まちの沿革

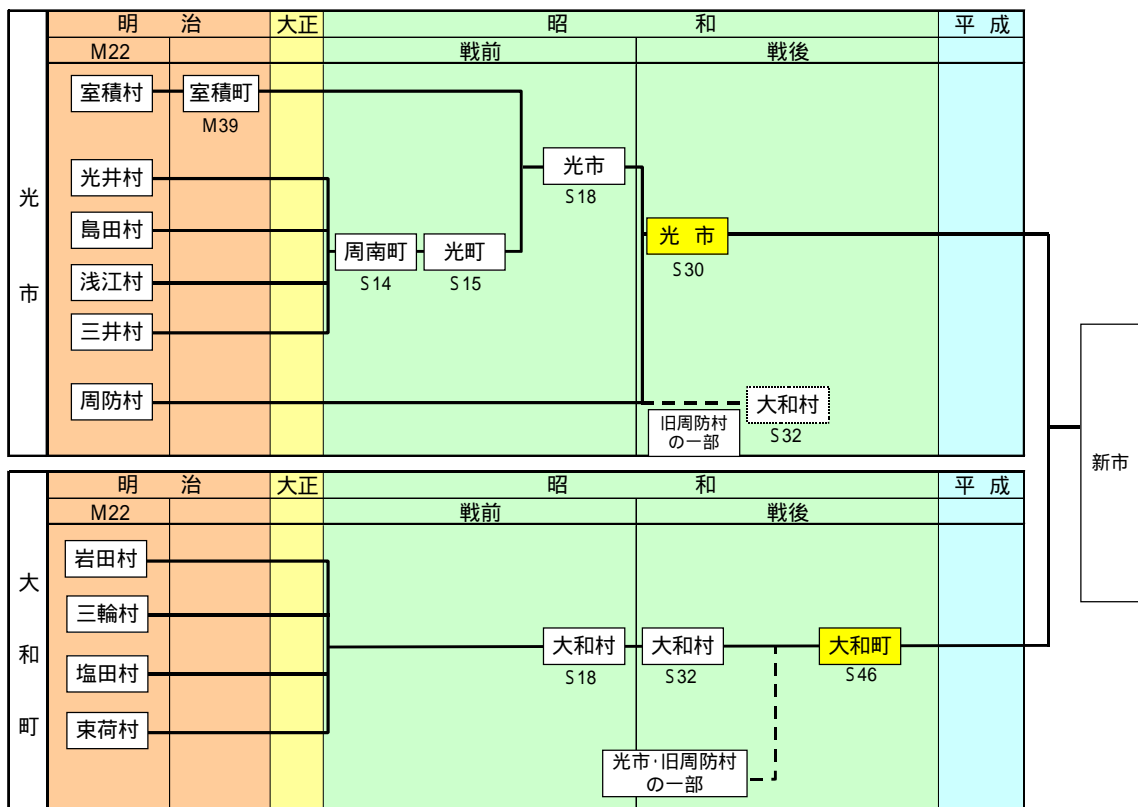
光市域及び大和町域は、毛利藩政下には、ともに熊毛宰判の管轄下であり、近世より島田川幹支流域を中心とした同一の経済圏を形成し、発展してきました。

光市は、昭和14年、島田川流域の光井、島田、浅江、三井の4カ村が合併し周南町となりましたが、昭和15年に光海軍工廠が開庁したことに伴い、町名を光町に変更しました。その後、昭和18年に室積町と光町の2町が合併し、光海軍工廠を中心とする軍都として光市が誕生しました。

さらに、昭和30年の周防村との合併により現在の光市域が形成され、海軍工廠の跡地へ進出した二大企業を中心に、周南工業地帯の一翼を担う近代産業都市として発展してきました。

一方、大和町は、昭和18年に光海軍工廠への食糧や物資、労力の供給地としての発展を期待し、岩田、三輪、塩田、束荷の4カ村が合併して大和村が誕生しました。戦後、光市の一部(旧周防村の一部)を編入するとともに、昭和46年には町制を施行し、高度経済成長の中、周南地域のベッドタウンとしての要素と、島田川水系や田布施川水系の流域を中心とした昔ながらの農村地域の要素との両面をもつ農住の町として発展してきました。

【 合併の変遷 】

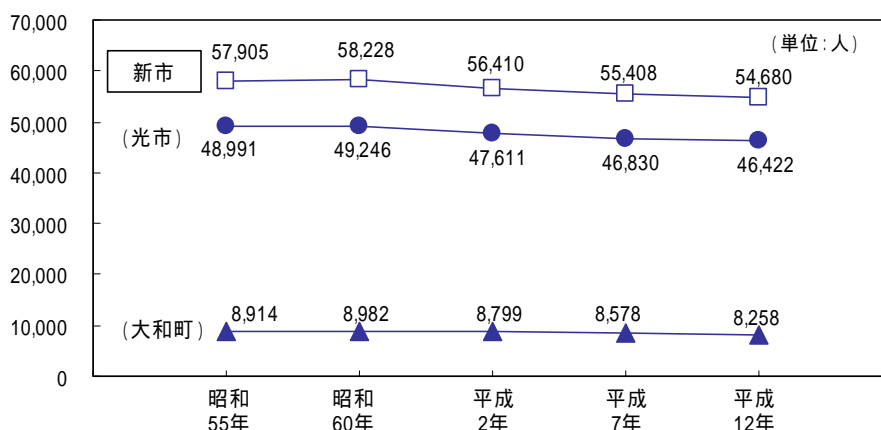


3. 人口・世帯数

平成 12 年における新市の総人口は 54,680 人で、昭和 60 年以降、減少傾向が続いています。年齢別人口をみると、年少人口（0～14 歳）は昭和 55 年以降、減少傾向が続いており、生産年齢人口（15～64 歳）においても平成 2 年をピークに減少傾向が続いています。その一方で、老年人口は増加傾向が続き、平成 12 年における高齢化率は 19.9%となっています。

一方、世帯数は増加傾向が続いており、世帯当り人員が昭和 55 年の 3.5 人から平成 12 年には 2.7 人と核家族化が進んでいます。

【 人口・世帯数 】



区分	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	山口県(H12)	
	総人口	57,905	58,228	56,410	55,408	54,680	1,527,545
年齢別人口	年少人口	14,833	13,166	10,011	8,477	7,854	213,578
	構成比	25.6%	22.6%	17.7%	15.3%	14.4%	14.0%
	生産年齢人口	37,018	38,074	38,287	37,495	35,962	974,131
	構成比	63.9%	65.4%	67.9%	67.7%	65.8%	63.8%
	老年人口	6,054	6,988	8,106	9,436	10,864	339,836
	構成比	10.5%	12.0%	14.4%	17.0%	19.9%	22.2%
総世帯数	16,536	17,666	18,154	19,130	19,992	583,725	
世帯当り人員	3.5	3.3	3.1	2.9	2.7	2.6	

(国勢調査)

4. 産業

新市では、島田川や田布施川上流での農業や瀬戸内海における水産業などの第1次産業から、商店街や幹線沿道等における日常生活を支える商業活動まで多様な産業が展開しています。

特に、臨海部の二大企業を中心とした第2次産業が盛んで、平成11年における生産額は1,288億円で、新市の総生産額の60.4%を占めています。

新市の産業別就業人口の割合をみると、第1次産業が4.6%、第2次産業が39.0%、第3次産業が56.3%となっており、県平均と比べると、第2次産業の就業者比率が高いのが特徴的です。

光市と大和町の就業構造はほぼ同様の傾向を示していますが、大和町では第1次産業の就業者割合が8.8%と、県平均に比べて高い割合を示していることが特徴的です。

【 産業生産額 】

(単位:百万円、1人あたり:千円)

		平成10年度	平成11年度	構成比(H11)	人口1人* あたり生産
市町村内総生産		185,900	213,382	100 %	3902.4
産業別	第1次産業	1,239	1,085	0.5 %	19.8
	第2次産業	102,441	128,831	60.4 %	2356.1
	第3次産業	84,614	85,345	40.0 %	1560.8

(山口県市町村経済計算)

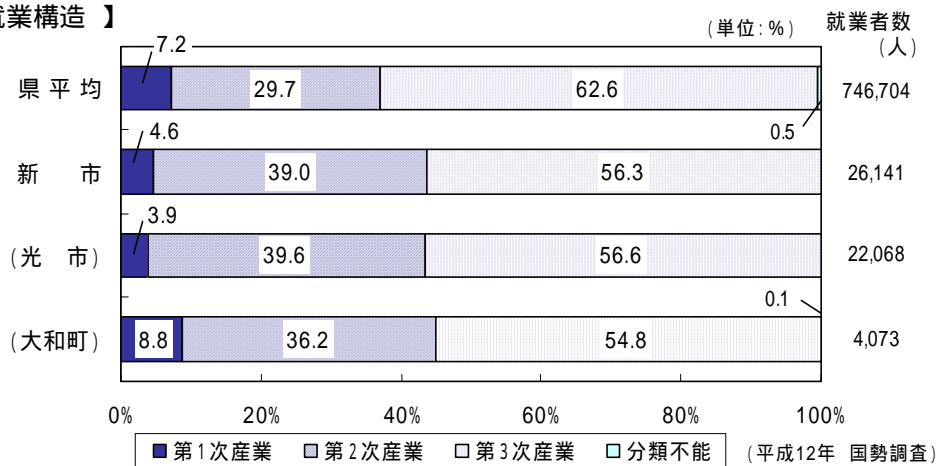
* H12国勢調査人口

産業別の生産額の合計は、控除等の要因のため、総生産の値とは若干異なる。

市町村内総生産:市町村内に所在する生産主体により、生産活動の結果生み出された付加価値の総計で、市町村内総生産額(生産総額)から中間投入(原材料等の物的経費)を控除したものをいう。

【 就業構造 】

(単位:%)



5. 生活圏（通勤・通学）

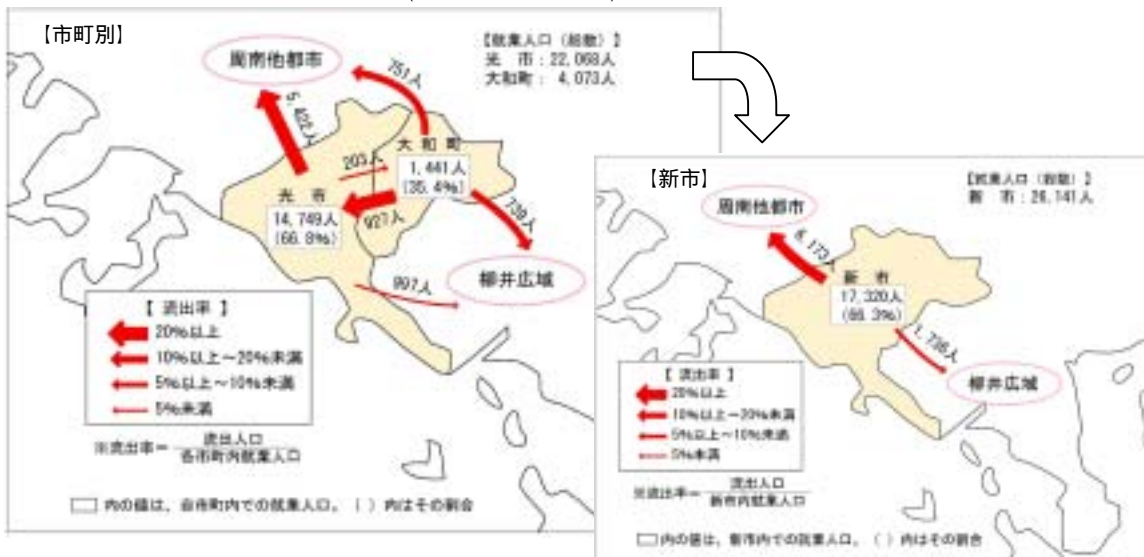
通勤・通学からみた日常生活圏では、光市は通勤・通学ともに自市内の割合が6割以上と高く、周南市や下松市等の周南他都市へ通勤では24.6%、通学では21.3%の流出がみられます。

大和町では、通勤・通学ともに自町内の割合が低く、通勤では光市へ22.8%、通学では光市へ29.2%、柳井市等の柳井広域へ34.2%の流出がみられます。

新市は通勤・通学ともに自市内の割合が約6割以上を占め、自市内において比較的自立した日常生活圏を形成しています。市外への流出状況を見ると、周南他都市への流出は、通勤では23.6%、通学では20.3%みられ、柳井広域への流出は、通勤では6.6%、通学では11.9%みられます。

【通勤流動図】

(平成12年 国勢調査)



【通学流動図】

(平成12年 国勢調査)

